

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	乙	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 岡地 祥太郎

論 文 題 目

Endobronchial ultrasound transbronchial needle
aspiration in older people

(高齢者における超音波気管支鏡ガイド下針生検)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

横井 香平 

名古屋大学教授

委員

安藤 雄一 


名古屋大学教授

委員

松田 直之 

名古屋大学教授

指導教授

長谷川 好規 

論文審査の結果の要旨





今回、70歳以上の高齢者における Endobronchial ultrasound transbronchial needle aspiration (EBUS-TBNA、超音波気管支鏡ガイド下針生検)の安全性、有用性についてレトロスペクティブに検討した。高齢者群 (n = 34) では Performance status (PS) 不良や併存疾患の増加が見られたが、検査中の生体モニター値や合併症の頻度において非高齢者群 (n = 75) と比べて有意な差を認めなかった。合併症症例はいずれも保存的加療により改善した。悪性腫瘍の診断に関する感度は高齢者群で 95%、非高齢者群で 92%、特異度はともに 100%と高く、両群に差はなかった。この結果、EBUS-TBNA は起こりうる合併症に留意する必要があるものの、高齢者においても非高齢者と同等に安全かつ有用な検査であることが示された。

本研究に対し、以下の点を議論した。


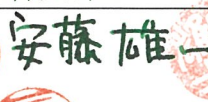



1. 高齢者では心肺機能の低下や併存疾患の増加から気管支鏡のリスクが高まる可能性があり、特に 80 歳以上で合併症増加の報告がある。本研究では 70 歳以上の高齢者群において、69 歳以下の非高齢者より PS が低下し、併存疾患も多かったが、検査合併症、診断能については同等であった。
2. PS の低下が気管支鏡の合併症を増加させるかについては明らかにされていない。本研究では高齢者群でより PS 不良例を多く認めたが、それらに合併症は生じていなかった。また、高齢者群、非高齢者群ともに併存疾患と合併症との関連は明らかでなかった。
3. 過去の報告では EBUS-TBNA のみを対象とした合併症のリスク因子は明らかでなく、経気管支生検を行うと合併症が増加する。本研究では EBUS-TBNA のみを施行した患者を対象としている。EBUS-TBNA の悪性腫瘍の転移診断における感度は高く、偽陰性に寄与する因子は十分に明らかにはされていない。本研究では高齢者群の 4.2%、非高齢者群の 5.7%に悪性腫瘍診断の偽陰性が見られた。
4. EBUS-TBNA での介入が必要な出血性合併症の頻度は 0.2%とされており、本研究でも出血性合併症は認めていない。患者背景として血小板低下、腎不全(透析)、抗血小板薬内服などが気管支鏡における出血性合併症のリスクとなる。腎細胞癌の転移など出血リスクが高い病変の生検には注意する。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	岡地 祥太郎
試験担当者	主査	横井香平  安藤雄一  松岡 隆 		
	指導教授	長谷川好規 		
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者と気管支鏡のリスクについて 2. パフォーマンス・ステータス不良や併存疾患と気管支鏡のリスクについて 3. EBUS-TBNAを行う際のリスクや診断に関連する因子について 4. 気管支鏡における出血性合併症について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、呼吸器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	岡地 祥太郎
学 力 審 査 担 当 者	主 査	 瀬井香平  安藤雄一  松田本之 		
	指導教授	 長谷川好規		

(学力審査の結果の要旨)

名古屋大学学位規程第10条第3項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。